書くこと 2

時間内に書き終わらない

全 … 学級全体に対する指導や支援

個 … 個人に対する指導や支援

書き始めるまでに時間が掛かる場合

①自分のことを話す活動をしてから書かせる。全

書く活動の前に話す活動を行い、自分のことを繰り返し話す経験をさせておく。音声で語句や表現に十分に慣れ親しませてから書く活動を行う。

例) 夏休みに行った場所を書く場合

- ・ I went to ~.の表現を使って自分が行った場所をたくさんの友達に話す。
- ・ I went to ~.の表現を、音声を聞きながら声に出して読む。
- ・ 「~」の部分に入る語句を、手本を見ながら書き写す。

②書き出しの部分をなぞり書きさせる。全

話す活動で自分が話したことを書く際に、書き出しの部分やどの児童にも共通する部分はなぞり書きができるようなワークシートを用意する。自分に関する部分は手本を見ながら書き写させる。

③自分に関する部分を書くための語句を示す。全・個

自分に関する部分を書くために、語句を選択できるように手本を示す。手本としては、絵と文字を示したピクチャーカードやピクチャーディクショナリーなどが考えられる。ピクチャーカードやピクチャーディクショナリーにない語句は、タブレットや児童用英語辞典などを使って調べさせる。

書くことに時間が掛かる場合

①手本を近くに置かせる。全・個

黒板に例文を示すだけでなく、児童が手元で見られる手本を用意する。児童が書きたい語句や表現を聞き取って4線に書いたものを手本として渡すことも考えられる。

②単元を通じて毎時間少しずつ書く活動を行う。全

単元を通して複数の文を書く場合、一度に全て書かせるのではなく、1時間に1文ずつ書くなど、作業を分けて取り組ませ、負担を減らす。その時間の話す活動で十分に慣れ親しんだ表現を書かせるようにする。

③書き写す量を調節する。全・個

4線を使って英語を書くことに慣れるまではなぞり書きをさせ、書き写す量を調節する。文を書く場合は、例文と共通する部分をなぞり書きできるワークシートを用意する。